

Time

新幹線が滑るようにプラットフォームホームに入ってきた。ホーム柵にやや遅れて車両扉が開くと、慣れた手つきで駅員がスロープ板を渡した。

車内の多目的室まで笑顔で案内してくれる。車いす利用者に限らず、具合の悪い人や授乳、おむつ交換など、さまざまな用途で使えるスペースだ。

すぐそばには、広くなったバリアフリートイレもある。座席には車いす向けのスペースも確保されている。鉄道も設備改良でこうしたユニバーサルデザインへの配慮が見られるようになった。

利用者が多い駅舎ではバリアフリー化の工事がほぼ終わり、お年寄りや障害がある人だけでなく、ベビーカーを使う人や大きな荷物を抱えた人

やさしい旅ヘルプ

改善進む鉄道バリアフリー

も利用しやすくなった。複雑な構造の駅舎では、分りやすい表示も重要だ。駐車場や停車場からのアプローチも大切な動線の確保で、こうしたポイントにも配慮した整備が待たれる。

鉄道の旅には交通エコロジック・モビリティ財団が提供しているホームページ「らくらくおでかけネット」が便利で、全国のバリアフリー情報を調べることができる。

この10年で鉄道サービスのバリアフリー化は大幅に改善され、特筆できるのは駅員らの対応が向上したことだ。ただし、車いす利用者などにとつ

誰でも使える新幹線の多目的室



設備に加え 駅員も対応

「夢の超特急」と呼ばれた車両は代替わりの時を迎え、技術の進歩はさらに夢を膨らませる。見るもよし、撮るもよ

構築することが重要とし、鉄道もバリアフリー化の重点項目の一つだ。

体が不自由になっても、大好きな鉄道旅行はいつまでも自由にできる社会でありたい。

（日本トラベルヘルパー協会理事長・篠塚恭一）

（日本トラベルヘルパー協会理事長・篠塚恭一）